

市町村合併を考える①

表2 日常生活圏の状況…常住地がある市町村からそれ以外の市町村への通勤・通学、通院および買い物を目的とする移動状況を示したもの

●通勤・通学の状況（15歳以上の従業者および通学者）

	常住地 (%)	常 住 地 外				
		第1位 (%)	第2位 (%)	第3位 (%)	第4位 (%)	第5位 (%)
白根市	59.7	新潟市 19.8	旧黒埼町 3.1	三条市 2.6	新津市 2.3	加茂市 2.0
小須戸町	47.6	新潟市 18.6	新津市 9.1	白根市 8.7	加茂市 3.0	三条市 2.4
味方村	46.5	新潟市 19.6	白根市 17.9	旧黒埼町 3.2	巻町 1.8	湯東村 1.7
月潟村	47.5	白根市 13.5	新潟市 8.7	燕市 6.2	三条市 4.3	巻町 3.7
中之口村	51.1	燕市 13.1	新潟市 7.4	三条市 6.1	巻町 5.8	白根市 5.5

資料：平成7年国勢調査

●通院の状況（外来通院者）

	常住地 (%)	常 住 地 外				
		第1位 (%)	第2位 (%)	第3位 (%)	第4位 (%)	第5位 (%)
白根市	49.8	新潟市 22.1	旧黒埼町 11.1	燕市 8.6	三条市 1.9	味方村 1.5
小須戸町	0.0	新津市 35.4	新潟市 29.9	白根市 18.9	旧黒埼町 7.9	加茂市 2.4
味方村	1.2	白根市 57.8	旧黒埼町 26.5	新潟市 12.0	燕市 1.2	三条市 1.2
月潟村	0.0	白根市 43.1	燕市 13.8	新潟市 13.8	湯東村 9.2	吉田町 7.7
中之口村	0.0	燕市 33.7	吉田町 15.8	新潟市 14.7	白根市 11.6	旧黒埼町 9.5

資料：平成11年県保健医療需要調査

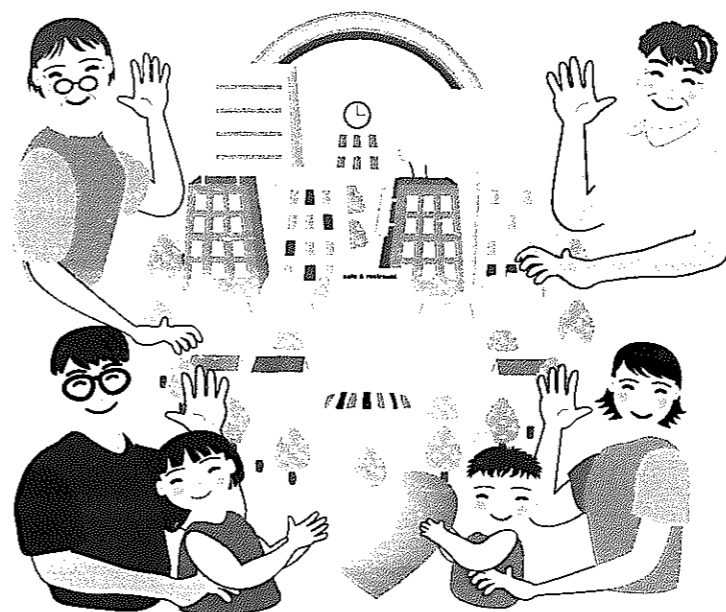
●買い物の状況（買回品※）

	常住地 (%)	常 住 地 外				
		第1位 (%)	第2位 (%)	第3位 (%)	第4位 (%)	第5位 (%)
白根市	44.1	新潟市 35.9	三条市 6.0	旧黒埼町 4.7	新津市 2.4	燕市 0.9
小須戸町	10.4	新潟市 32.7	新津市 25.7	白根市 21.6	三条市 2.1	加茂市 1.5
味方村	4.0	白根市 50.2	新潟市 33.6	三条市 5.5	旧黒埼町 2.3	燕市 1.7
月潟村	6.4	白根市 48.6	新潟市 22.1	三条市 13.2	燕市 4.4	巻町 0.6
中之口村	6.0	新潟市 23.1	白根市 19.4	燕市 18.5	三条市 15.2	巻町 8.7

資料：平成10年度新潟県広域商圏動向調査

※買回品…呉服・寝具、高級衣料、服飾品・アクセサリ、靴・カバン、時計・メガネ・カメラ、家庭電器製品、家具・インテリア、文具・書籍、レジャー・スポーツ用品、おもちゃ・楽器等

# 市町村合併を考える①



最近新聞でも盛んに報道されているように、全国各地で市町村合併に関する議論が高まっています。これは、国や県が具体的な合併パターンや合併に伴う財政支援策を提示するなど、市町村合併が促進されるよう積極的な姿勢を示していることも一因です。

新潟市町村では平成13年1月に、新潟市と黒埼町が合併しました。県内でも任意の合併協議会が設立されるなど、合併問題に対する取り組みが始めた地域も増えてきています。市町村が合併するということはどのようなことなのでしょう。か。また白根市の将来はどうあつたらよいのでしょうか。今回からシリーズで、合併問題を考えるためのさまざまな情報をお知らせしていきます。

**広域的なまちづくりの必要性が高まっています**

市町村は今まで、その規模にかかわらず、その市町村内で完結するまちづくりをしてきました。特にスポーツ施設や文化施設等の公

**日常生活の広域化が進んでいます**

人々の生活圏は、交通手段、通信手段の発達や、経済活動の活発化により、以前にも増して現在の市町村の枠を超えて広がっています。

表2を見て分かるように、白根市は通勤・通学、通院、買い物のすべての面において、新潟市に対する依存率が10%を超えています。また、近隣の須戸町、味方村、月潟村、中之口村も同様の傾向にあります。白根市に対する依存率も高くなっています。

このように白根市から他市町村へ流出している人がいる一方で、他市町村から白根市内に流入している人もおり、日常生活圏の広域化が進んでいることが分かります。

これに伴い、個々の市町村の区域を超えた広域的な行政需要が発生していると同時に、市町村間の行政サービスの不均衡や、受益と税負担の不一致が生ずるなど、さまざまな問題を引き起こしています。

（次のページへ続く）

共施設については、各市町村が施設整備を進めてきた結果、小規模な施設であったり、狭い範囲に類似施設が設置されていたりと、必ずしも適正な配置が行われていないといえます。

白根地域広域事務組合を構成する五市町村（白根市・小須戸町・味方村・月潟村・中之口村）では、平成9年に公共施設の相互利用協定を結んだことにより、例えば味方村のプールを同一料金で利用できるようになりました。

しかし、この五市町村には大規模なスポーツ施設や文化施設が不足しているなど、従来の市町村の枠のまま施設整備を進める方法では、住民の要望にこたえられないケースも生じています。

また、中ノ口川沿線の地域にとっては、新潟交通電車線がなくなった今、公共交通機関の整備も大きな課題となっています。車が普及したとはいえ、公共交通機関は生活の大切な足です。私たちの生活が市町村の枠を超えて広がっていることや地域の発展を考えると、地域と地域を結ぶ基幹的な交通機関の整備を図ることが必要です。

つまり公共施設や交通網の整備等、これからのまちづくりは、従来の市町村の枠を超えて広域的な視点で考えていく必要性がますます高まっていくといえます。

図1 現在の白根市

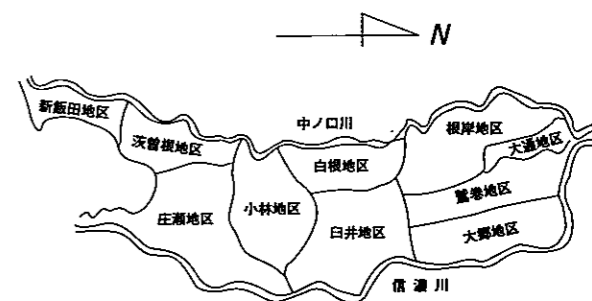


表1 白根市の合併の歴史

明治22年 (1889年)	新飯田村、茨曾根村、庄瀬村、菱潟村、小吉村、林村、白井村、白根町、浄楽寺村、大郷村、鷺巻村、根岸村が発足
明治35年 (1902年)	白根町、浄楽寺村が合併し、白根町に庄瀬村、菱潟村、小吉村の一部が合併し、庄瀬村に林村、小吉村の一部が合併し、小林村に
昭和30年 (1955年)	白根町、新飯田村、茨曾根村、庄瀬村、小林村、白井村、大郷村、鷺巻村、根岸村の1町8村が合併し、白根町に（昭和34年に市制施行）

皆さんは、市町村合併といわれても普段の生活の中ではあまり意識しない問題かもしれません。現在皆さんが通勤・通学等に利用している生活道路の維持管理、小・中学校や公共施設等の設置運営、農業や商業等の産業の振興、福祉サービスの提供、医療や介護保険の運営、上下道の供給、消防やごみ処理等は個々の市町村や市町村が共同で設置する一部事務組合が行っています。

今、問題となっているのは、こ

**白根市の合併の歴史**

白根市は、表1のように明治・昭和の大合併を経て、今の形となりました（図1）。

このときの合併は、国による政策的側面が非常に強く、戸籍の管理や学校の設置などを地方自治体で行うという目的を実現するために実施されました。

の市町村の在り方を今後どのようにしていくかということですが。